

分科会評価報告書（令和6年度決算）

（都市経済分科会 No.2）

(所管課, 事業コード)	(農林水産課 5560)	
事業名	農業振興事業	※P. 570

評 価	B	A 十分評価できる ② やや評価できる C あまり評価できない D 全く評価できない
-----	---	---

【評価に至った理由】

本事業は、農業生産コストの低減や担い手の育成といった課題に対応し、市の農業を持続的に発展させることを目的としている。

評価にあたり、農産物の売上は目標を達成し、主要作物の収益も好調であった点は成果として認められる。

しかし一方で、新規就農総合支援事業補助金の新規受給の実績はなく、支援制度を有効に活用することができていないことは課題である。

また、補助金が経費補填にとどまり、生産性向上や収益基盤強化といった持続的な成果に十分結びついていない点も指摘された。

以上のことから、本事業は売上確保など一定の効果は見られるものの、担い手育成や制度活用の面で課題があることから、分科会評価は「やや評価できる」とする。

今後の方向性	3	1 拡充 2 継続 ③ 改善 4 縮小 5 休止 6 廃止
--------	---	--

【今後の取り組み方と提言】

今後の方向性としては、担い手確保や生産性の向上、収益基盤の強化に直結する事業への転換が必要である。

特に、6次産業化やブランド化を推進し、付加価値の高い農産物の生産を支援することが重要である。

あわせて、担い手支援や認定農業者制度の周知を徹底し、補助金制度については対象者に適切に行き届くよう改善を図り、若手農家が実際に活用できる仕組みとすることが期待される。

さらに、予算削減ではなく、事業目的に沿った目標数値の再設定や運営方法の見直しを進めることで、持続可能な成果に結びつけることが期待される。

以上を踏まえ、分科会評価は「改善」とする。